

令和7年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

国内外の動向とその教育への影響、そして教育の重要性

2020年代も後半を迎えました。後代の歴史家は、この10年間を時代の分岐点と位置づけるかもしれません。前半は、新型コロナの蔓延により世界的に影響が拡大しました。いわゆる三密の回避が重要視され、インターネットを介したリモート会議やリモートワークが急速に普及しました。コロナ禍が収束を迎えはじめた時期からは、大国による隣国に対する武力紛争が始まり、アフリカや中東においても紛争が勃発しました。2026年に入ってから別の大国の武力行使により中東で新たな紛争が生起し、第3次石油危機とも言える状況がもたらされ、世界は不安定な時代を迎えています。日本では、少子高齢化が一段と進行し、多くの産業分野で人手不足となっています。一方で、在住外国人は増加を続け、全人口の3%を占めるに至りました。他の先進諸国に比べるとまだ低い割合ではあるものの、急速な外国人人口増加により日本社会の多文化化に否定的な見解も散見されるようになり、多文化共生のあり方が改めて問われています。もう一つの変化が、急速なAI技術の進歩と社会への浸透です。労働時間の削減や効率化への寄与が期待される反面、企業の中には新規採用を削減する動きもあり、プラス面とマイナス面の双方を慎重に吟味する必要がありそうです。

上記の国内外の情勢は、教育現場にも影響を与えています。コロナ禍により結果的に進んだデジタル化は、国のGIGAスクール構想もあり、学校現場におけるIT機器の急速な普及につながりました。子どもたちが教室でタブレットやPCを使ってデジタル教材を活用する姿は普通になりました。一方で、書く力の低下やSNSへの不適切な投稿など、デジタル化の弊害も観察され、北欧では紙の教科書や単語の筆記テストを復活させたといったニュースもありました。オーストラリアでは、16歳未満の子どもへのSNS使用を原則禁止する政策が導入され、その是非に関して議論が起きました。在住外国人の増加は、日本語を母語としない外国人児童の増加につながっています。日本語指導を必要とする外国籍児童生徒数は、2003年度の1万9千人から2023年度には5万8千人に増加しました。香川県においても同様で、この20年間で当該児童生徒数は1.8倍増加し163人となっています。多文化共生の観点からも、近年母語教育の重要性が指摘され、外国出身者が多く通う愛知県立衣台高校では母語と日本語の両方の使用を認めることで、外国人生徒のやる気と成績向上を図ることに成功しています。世界的な紛争増加は、紛争当事国の子どもたちだけでなく、日本と関係する学校現場にも影をもたらしています。中東紛争を受け、イランの日本人学校は授業停止を余儀なくされ、日本で修了式を行う映像がニュースで流れていました。紛争・戦争のない世の中にするためにはどうすればいいのか、教員と子どもたちが一緒になって真剣に考える必要があるように思います。教員不足が叫ばれる中、私たち香川大学教育学部関係者は、次世代を担う子どもたちを育成するというとても大切な役割を担っていることを自覚し、香川県教育委員会と手を携えて、教育者になることの重要性をこれからも学生たちに伝えていきたいと思えます。

令和8年3月 香川大学教育学部長 平 篤志

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会では、子どもが豊かな知性とすこやかな心身を兼ね備えた、たくましい人に育つよう、教育やスポーツに関する取組を進めてまいりました。一方、学校や家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもの学力や学ぶ意欲、基本的な生活習慣、家庭や地域の教育力などの面においてさまざまな課題が生じてきています。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組みは24年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育現場の諸課題に対応するため、多方面で連携・協力を進めているところです。

令和7年度の事業を振り返りますと、香川大学の先生方には、県教育委員会事務局各課主催の現職教員研修や学力向上モデル校事業、道徳教育地域支援委託事業など、各種事業において、講師・助言者として専門的な視点からご指導・ご助言をいただきました。

また、連携事業である、公立学校での教育実習や、公立学校インターンシップの実施を通して、未来の教員の育成に力を注ぐとともに、教職大学院連携研修講座を実施し、現役の教員の資質・能力向上にも寄与していただきました。さらに、公立学校等の教育活動支援や、香川県学力等調査結果の分析においても、専門的な立場からご支援・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、坂出高校「教育創造コース」においては、この4月に10期生が入学しました。教育学部の先生方による年間10回以上の出前講座や、各学年のグループ研究活動の指導をはじめ、附属坂出小・中学校、幼稚園、特別支援学校での実習の受け入れなど、坂出高校教育創造コースの教育活動に対して、多大なるご理解とご支援を賜っておりますことにつきましても心より感謝申し上げます。本コースで学んだ3期生までは大学を卒業し、地元香川で教壇に立っている方もおられます。それに続く生徒たちが、教職への夢を一層膨らませ、理想の教師像を形づくり、未来の香川の教育を担う人材へと育ていくことを期待しております。

香川県教育委員会では、令和5年に「香川県教員等人材育成方針」を改正し、引き続き「教育に対する情熱をもち、素養と資質を備えた教員」「専門的な知識・技能と指導力を有し、社会変化や教育課題に適切に対応できる教員」「連携・協働しながら学校運営に積極的に参画する教員」を目指すべき香川の教員像として掲げています。今後も、一人ひとりの教員の個性に即した個別最適な学びや、校内研修等の教員同士の学び合いなどを通じた協働的な学びによって、教員等が教職経験に応じた知識・技能を習得し、実践的指導力を高められるよう、香川大学教育学部との連携協力を一層密にしながら、学び続ける教員の育成に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

令和8年3月

香川県教育委員会教育長

淀谷 圭三郎

目 次

はじめに

国立大学の動向と地域との連携の重要性

香川大学教育学部長 平 篤 志

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 淀 谷 圭三郎

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

【概要編】

令和7年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力

に関する取り組み一覧…………… 1

【資料編】

[資料 1]	令和7年度公立学校インターンシップ実施要項……………	10
[資料 2]	教育実践集中講座……………	12
[資料 3]	香川大学教育学部の専任教員として……………	16
[資料 4-1]	令和7年度香川県教育委員会免許法認定講習…………… (高等学校教諭)	20
[資料 4-2]	令和7年度香川県教育委員会免許法認定講習…………… (特別支援学校教諭)	21
[資料 5-1]	令和7年度管理職候補者研修会……………	22
[資料 5-2]	教員研修連携プログラム……………	23
[資料 6-1]	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業	25
[資料 6-2]	道徳教育地域支援委託事業……………	27

[資料 6-3]	幼児教育支援員派遣事業	28
[資料 7]	香川県学力等調査結果分析検討会議	29
[資料 8]	第 24 回「未来からの留学生」をふりかえり	30
[資料 9]	全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事業	31
[資料 10]	坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援	32
[資料 11]	教師のキャリアプランニング支援システム	39
[資料 12]	SDGs 教育プロジェクト	40

【覚書・要項】

	香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	41
	香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	42

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み

概 要 編

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

I 協議会関係

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連携協議会 (R8.1.30) ○ 幹事会 (R8.1.19) ○ 専門委員会 開催なし 	連携協議会開催 (R9.2 予定) ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和6年度実績報告書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度実績報告書作成 	

II 連携関係

1 教員養成に関するもの

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○高松市立新番丁小学校 2名 ○高松市立紫雲中学校 1名 ○香川県立坂出高等学校 1名 ○母校実習 5名 <ul style="list-style-type: none"> ・香川県（香川県立善通寺第一高等学校1名） （香川県立観音寺総合高等学校1名） ・徳島県（徳島県立海部高等学校1名） ・岡山県（玉野市立築港小学校1名） ・静岡県（浜松市立八幡中学校1名） 	・継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教員採用内定者が公立学校で研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者：49名 ・ 実施期間 令和8年1月～3月（5日程度） 	・継続実施	資料1
③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○高度教職実践専攻における実習連携協力校 4校の連携協力校（高松市立玉藻中学校、高松市立屋島中学校、高松市立多肥小学校、観音寺市立観音寺小学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 47校園の連携協力校（県立特別支援学校2校、高等学校3校、中学校14校、小学校26校、幼稚園2園） ※新たに2校（高松市立鬼無小学校、善通寺市立東中学校）追加予定。	
④公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） （高校教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実践集中講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ※教育関係職員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 <ul style="list-style-type: none"> ・退職校長（日下哲也） 主任指導主事（松本裕美、尼子智悠） ・年間2期、1人20～25時間程度の講義 ○現職教員等が教員養成実地指導講師として講義 	・継続実施	資料2
	<ul style="list-style-type: none"> ○現職教員等3名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 川東芳文、中名紀子、大和田俊 	・継続実施	資料3

<p>⑤大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕</p>	<p>○ 大学教員が公立学校現場で研修 ※コロナ禍以降実施せず。</p>	<p>・継続実施</p>	
--	--	--------------	--

2 教員研修に関するもの

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 内地留学の実施 (H19.8名、H20.7名、H21.8名、H22.7名、H23.6名、 H24.5名、H25.5名、H26.5名、H27.5名、 H28.11名、H29.10名、H30.10名、R1.10名、R2.6名、 R3.4名、R4.8名、R5.9名、R6.8名、R7.6名) ・教職大学院学校力開発コース 1名 ・教職大学院授業力開発コース 4名 ・教職大学院特別支援開発コース 2名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施 (令和8年度は9名の予定) ※9名の内訳(義務教育課7名、県立(特支)2名)	
②教員免許状取得のための研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月～10月)への大学教員の派遣等	・継続実施	資料4
③(免許法認定公開講座) 〔担当：教育学部〕	○小学校の現職教員が中学校教諭免許状(英語を取得するための免許法認定講習は令和6年度で終了)	・令和6年度で終了	
④指導改善研修 (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○対象受講者がなかったため、未実施。	・未定	
⑤教職員研修 (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○基本研修・職務研修・専門研修の講師・助言者として大学教員を派遣(9講座) ○教職大学院連携研修講座として6講座を実施。 ・子ども理解と学習指導 23名 ・道徳科の授業づくり 13名 ・教育効果を高めるためのICT活用法 17名 ・授業における特別支援教育 24名 ・学校の危機管理研究Ⅰ－① 2名 ・学校の危機管理研究Ⅰ－② 2名	・継続実施 ・継続実施 ・2講座を新規開講予定(学校の危機管理研究Ⅱ－①、②)	

<p>⑥特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<p>○内地留学の実施 (H25 2名、H26 2名、H27 2名、 H28 2名、H29 2名、H30 2名、 R1 2名、R2 1名、R3 1名、R4 1名 R5 1名、R6 2名、R7 1名) ※R7義務0名、特支1名</p>	<p>・継続実施</p>	
<p>⑦教員研修連携科目の実施 (管理職候補者研修会) (義務教育課) 〔担当：県教委〕 〔担当：教育学部〕</p>	<p>○管理職候補者研修会年8回のうちの2回を香川 大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究 I」として実施(大学教員が担当)</p> <p>○学校の危機管理研究I(集中・1単位) 7月31日 37名(うち院生2名) 8月1日 34名(うち院生2名)</p> <p>○学校の危機管理研究II(集中・1単位) 9月6日 10名(うち院生2名) 9月13日 10名(うち院生2名)</p>	<p>・継続実施</p>	<p>資料5</p>
<p>⑧教職大学院科目等履修 制度 (義務教育課) 〔担当：教育学部〕</p>	<p>○教員研修連携科目を履修する場合、事前に「教 職大学院科目等履修生」として申請・登録して 履修することにより、「教職大学院科目等履修 単位」として認定する。 ※上記⑦の受講者のうち、科目等履修生として 受講した者</p> <p>・学校の危機管理研究I(集中・1単位) 7月31日、8月1日とも 8名</p> <p>・学校の危機管理研究II(集中・1単位) 9月6日、13日とも 8名</p> <p>○「教職大学院科目等履修単位」を取得した者 が教職大学院へ入学した場合は、当該科目を取 得済として認定する。</p>	<p>・継続実施</p> <p>※引き続き、管理職 候補者及び「小 中教育指導研 修」受講者へ積 極的に働きかけ る</p>	

3 調査・研究に関するもの

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 道徳教育地域支援委託事業	・ 継続実施 (事業内容については検討中)	資料6
②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当：県教委]	○ 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析に対する指導助言	・ 原則継続実施 (香川県学習状況調査の実施内容が変更になるため、事業内容については検討中)	資料7

4 事業に関するもの

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員を講師として派遣 ・ 高松桜井高 ・ 高松商業高 ・ 高松西高	・ 継続実施	
②高大連携 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 高校生が香川大学の公開授業や体験授業に参加 公開授業：1学期15名、2学期15名 体験授業（夏休み）：37名	・ 継続実施	
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 学生ボランティア派遣事業（登録者15名） ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）に16名を派遣	・ 継続実施	
	○ 「放課後子供教室」支援ボランティア等の募集	・ 継続実施	
④未来からの留学生 〔担当：教育学部〕	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催（県教育委員会後援） 約1000名が参加	・ 継続実施	資料8
⑤県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・ 継続実施	
⑥各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・ 継続実施	
⑦生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開した。	・ 継続実施	

<p>⑧特別支援教育総合推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家チーム ・巡回相談 ・就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会 <p>(特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学校のセンター的機能での教育相談や特別支援学校に在籍する幼児児童生徒に対する指導の困難事例についての指導助言 ○ 特別支援学校を訪問し、幼児児童生徒への指導内容・方法、学校の支援体制について指導助言 ○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 	
<p>⑨全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事業</p> <p>(特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育に関する、教員に必要な資質能力の指標作成や教員のキャリアに応じた研修内容等についての協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度で事業終了 ・成果を引き継ぐ新規事業を実施予定 	資料9
<p>⑩令和7年度 独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業</p> <p>〔担当：教職大学院〕</p>	<p>○四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院との共催において実施。令和7年度は3つのラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に各教員の資質・能力向上につなげる内容を香川県教育センターや高松市総合教育センターとの協働のもと、多くの先生方との協力を得て提供してきた。</p> <p>道徳ラボ(3回) 保健室ラボ(1回) 学級づくりラボ(1回)。四国内の大学教員の協働で道徳教育研修DVDを作成(3月に完成予定)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、四国地域教職アライアンス香川大学センターではなく、香川大学単独でNITSに事業申請中。採択になれば、授業づくりラボ、保健室ラボ、ICTラボを実施予定。「参加者主体型研修モデル」を導入予定。 	
<p>⑪坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業</p> <p>(高校教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学教員による指導等 <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の実施(9回) ・グループ研究指導(3回)及び研究室訪問受け入れ ・大学訪問の受け入れ(1回) ○ 附属学校における活動(計14回) <ul style="list-style-type: none"> ・附属坂出小学校(6回) ・附属坂出中学校(4回) ・附属坂出幼稚園(3回) ・附属特別支援学校(1回) ○ 教育創造コースの教育内容に関する検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 	資料10
<p>⑫教員研修の高度化推進事業(2.教員研修の高度化モデル開発事業)</p> <p>(県教育センター) 〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○香川大学と県教育委員会は、教師のキャリアプランニング支援システム(教員と校長の1on1対話支援ツール)を運用中 	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの運用を継続 	資料11

5 その他

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 令和7年度新規派遣 ※ () は合計数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属高松小 3 (25) ・附属高松中 4 (19) ・ 附属坂出小 4 (18) ・附属坂出中 4 (19) ・ 附属特別支援学校 4 (13) ・ 附属幼稚園 1 (5) ・高松園舎 1 (1) 計 21 名 (100 名)	・ 継続実施	

参 照

6. 香川大学の取組

項 目	令和7年度実績	令和8年度計画等	資 料
①SDGs 教育プロジェクト 〔担当：教育学部〕	○附属学校と学部との共同研究 ○イベントの実施等 (主なもの) <ul style="list-style-type: none"> ・「サイエンスがひらく未来のキャリア」 (8月9-10日)・在来コメ品種「白稲(しろいね)」 「栽培・醸造実験の成果報告と試飲会」(5月16日)・アジア環境史協会第1回国際学会(9月26-30日)サポート・「SDGsを学問する」講演会(11月20日) <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通科目「SDGs学入門」企画と運営・ 創発科学研究科共通科目「フィールドスタディ」企画と運営 	・ 継続実施	資料 12

資 料 編

令和7年度 公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

1. 目的

令和8年3月卒業見込で香川県における教員採用が内定している教育学部の学生が、4月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

2. 対象者

令和8年3月卒業見込で香川県における教員採用が内定している教育学部の学生

3. 参加人数

公立小学校	33名	公立中学校	12名	
公立高等学校	1名	公立特別支援学校	3名	計 49名

4. 実施時期・期間

令和8年1月下旬～令和8年3月初旬の間で1週間（5日程度）

5. 研修学生・研修校・研修期間

別紙 参照

6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加
 - ※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

7. 事前・事後指導

(1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導

「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4判1枚程度）、教務課学務係を通じて研修校
香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

(2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ、教務課学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4判1枚程度）

8. その他

研修の内容・方法等の詳細については、香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

公立学校インターンシップ 研修校一覧(令和7年度)

No	研修校	研修期間	人数
1	高松市立大野小学校	1/26 (月) ~ 1/30 (金)	1名
2	高松市立新番丁小学校	2/9 (月) ~ 2/16 (月)	3名
3	高松市立古高松中学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	2名
4	高松市立高松第一小学校	2/9 (月) ~ 2/16 (月)	1名
5	高松市立多肥小学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	2名
6	高松市立栗林小学校	2/24 (火) ~ 3/2 (月)	2名
7	高松市立木太南小学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
8	高松市立亀阜小学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	3名
9	宇多津町立宇多津北小学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	1名
10	丸亀市立城北小学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
11	丸亀市立城東小学校	1/26 (月) ~ 1/30 (金)	1名
12	三木町立氷上小学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
13	高松市立古高松南小学校	3/2 (月) ~ 3/6 (金)	1名
14	高松市立太田小学校	2/24 (火) ~ 3/2 (月)	2名
15	丸亀市立飯山北小学校	1/26 (月) ~ 1/30 (金)	1名
16	高松市立花園小学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	2名
17	高松市立木太小学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	1名
18	善通寺市立吉原小学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
19	高松市立紫雲中学校	1/26 (月) ~ 1/30 (金)	2名
20	高松市立仏生山小学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
21	高松市立山田中学校	2/24 (火) ~ 3/2 (月)	1名
22	高松市立木太北部小学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
23	三木町立平井小学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	1名
24	坂出市立東部小学校	1/26 (月) ~ 1/30 (金)	1名
25	丸亀市立城西小学校	2/24 (火) ~ 3/2 (月)	1名
26	高松市立下笠居小学校	3/2 (月) ~ 3/6 (金)	1名
27	高松市立前田小学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	1名
28	坂出市立東部中学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	1名
29	三豊市立上高瀬小学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
30	高松市立香川第一中学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	1名
31	高松市立勝賀中学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
32	高松市立香東中学校	1/26 (月) ~ 1/30 (金)	1名
33	三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校	2/9 (月) ~ 2/16 (月)	1名
34	高松市立国分寺中学校	2/16 (月) ~ 2/20 (金)	1名
35	高松市立下笠居中学校	2/2 (月) ~ 2/6 (金)	1名
36	香川県立香川中部支援学校	1/26 (月) ~ 1/30 (金)	3名
37	香川県立高松工芸高等学校	2/9 (月) ~ 2/16 (月)	1名

令和7年度 第1期 教育実践集中講座

魅力のある職業 先生になろう

～夢と笑顔を大切にする教師をめざして～

- 【趣 旨】 ・ 教員になるための準備講座である。
 ・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

- 【担 当】 客員教授 尼子 智悠（香川県教育委員会事務局 義務教育課 指導主事）
 客員教授 松本 裕美（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）
 客員教授 日下 哲也（公益財団法人 日本教育公務員弘済会香川支部 支部長）

【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
5月17日(土) (13:00~17:00)	621 講義室	<講義・演習> (尼子・松本) 【教育法規】 「教育法規とケース・スタディ① (尼子)」 「教育法規とケース・スタディ② (松本)」	「教職研究Ⅰ (教育法規入門)」の集中講義として行う。 (川東・中名・大和田)
5月21日(水) (13:00~15:00)	611 講義室	<講義・演習> (尼子) 【子ども理解】 「『子ども理解』と授業実践・附属学校参観の心がまえ」	「教育実践プレ演習」の講義として行う。 (松下)
5月22日(木) (16:20~17:50)	611 講義室	<講義・演習> (松本・日下) 【教育実習事前指導】 「私の出会った教育実習生・教育実習に向けてのメッセージ」	「教育実践演習 (教育実習事前指導)」の講義として行う。 (山岸)
5月26日(月) (14:40~16:10)	415 講義室	<講義・演習> (松本) 【道徳教育】 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(イ)」の講義として行う。 (植田)
6月 7日(土) (13:00~17:00)	総合教育 (DRI)棟 E11	<講義・演習> (尼子・松本) 【教育法規】 「教育法規とケース・スタディ③ (尼子)」 「教育法規とケース・スタディ④ (松本)」	「教職研究Ⅰ (教育法規入門)」の集中講義として行う。 (川東・中名・大和田)
6月 9日(月) (13:00~14:30)	422 講義室	<講義・演習> (日下) 【生徒指導】 「生徒指導の実際について」	「生徒指導・進路指導論(ロ)」の講義として行う。 (柘澤)
6月 9日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (日下) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(イ)」の講義として行う。 (柘澤)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先

附属教職支援開発センター事務室 TEL : 087-832-1683

令和7年度 第2期 教育実践集中講座

プロの教師とは何か？

～教師になるあなたへのエール～

- 【趣 旨】・学校現場における実際の指導の在り方について考える。
・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担 当】 客員教授 尼子 智悠（香川県教育委員会事務局 義務教育課 指導主事）
客員教授 松本 裕美（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）
客員教授 日下 哲也（公益財団法人 日本教育公務員弘済会香川支部 支部長）

【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
10月30日(木) (13:00～14:30)	教授法 演習室	<講義・演習> (松本) 【道徳教育】ケーススタディ 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」	「道徳教育論(口)」の 講義として行う。 (植田)
10月31日(金) (8:50～12:00)	611 講義室	<講義・演習> (尼子) 【教育課題の探求①】 「日本の学力問題」	「保育・教職実践演習 (幼・小・中・高)」の 講義として行う。 (山岸)
		<講義・演習> (日下) 【教育課題の探求①】 「これからの道徳教育」	
11月6日(木) (8:50～10:20)	611 講義室	<講義・演習> (尼子・松本) 【教育方法と実践】 「ICTを活用した授業づくり①」	「教育の方法と技術 (口)」の講義として行 う。 (松下)
11月6日(木) (13:00～14:30)	415 講義室	<講義・演習> (尼子) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「いじめ問題との関連を中心に」	「生徒指導・進路指導 論」の講義として行う。 (柘澤)
11月10日(月) (18:00～19:30)	415 講義室	<講義・演習> (尼子) 【教育の最新事情】① 「教師に求められる力」	「教職研究Ⅱ」の講義 として行う。 (大和田・川東・中名)
11月12日(水) (13:00～16:30)	415 講義室	<講義・演習> (松本・日下) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」	「教育実践演習(教育 実習事後指導)」の講義 として行う。 (山岸)
11月14日(金) (8:50～12:00)	611 講義室	<講義・演習> (日下) 【教育課題の探求③】 「学校現場における教育課題とは」	「保育・教職実践演習 (幼・小・中・高)」の 講義として行う。 (山岸)

11月21日(金) (8:50~12:00)	611 講義室	<講義・演習>(松本) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして ～4月からの心がまえ(小学校)～」	「保育・教職実践演習 (幼・小・中・高)」の 講義として行う。 (山岸)
12月1日(月) (18:00~19:30)	415 講義室	<講義・演習>(松本) 【教育の最新事情】③ 「教育課程と学校評価」	「教職研究Ⅱ」の講義 として行う。 (大和田・川東・中名)
12月4日(木) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(尼子) 【教育方法と実践】 「ICT活用した授業づくり②」	「教育の方法と技術 (口)」の講義として行 う。 (松下)
12月8日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(日下) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(口)」の 講義として行う。 (柘澤)
12月10日(水) (10:30~12:00)	422 講義室	<講義・演習>(日下) 【人権教育】 「学校教育における人権教育 ～小学校での取組事例に学ぶ～」	「人権教育」の講義と して行う。 (小方直)
12月11日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(松本) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「校務分掌との関連を中心に」	「生徒指導・進路指導 論」の講義として行 う。 (柘澤)
1月26日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(日下) 【場面指導】ロールプレイ 「多様な対応力の向上を目指して」	「学級経営論(口)」の 講義として行う。 (柘澤)
1月26日(月) (18:00~19:30)	621 講義室	<講義・演習>(日下) 【教育の最新事情】④ 「学級で育つ子どもたちのために」	「教職研究Ⅱ」の 講義として行う。 (大和田・川東・中名)
2月2日(月) (16:20~17:50)	621 講義室	<講義・演習>(日下) 【場面指導】ロールプレイ 「多様な対応力の向上を目指して」	「学級経営論(口)」の 講義として行う。 (柘澤)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL:087-832-1683

香川大学教育学部の専任教員として
～23年目の取組と今後の展望～

川東芳文・中名紀子・大和田俊

1 今年度の取組の重点

香川大学教育学部では、「4か年を見通した実地教育プログラム」が構築されている。このプログラムにおいて、交流人事教員の教職支援をまとめたものが、表1【4か年を見通した教職支援】である。このうち、下線を引いた授業の概要を以下に紹介する。

表1 【4か年を見通した教職支援】 交流人事教員が中心となる授業等

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		学校理解		子ども理解		授業理解		教職理解	
授業	大学入門ゼミ	教職概論(イ)(ロ)	教育実践プレ演習 教育学チユートリアルⅠ 教育学演習ⅠA 学校教育課程論A	初等授業研究 生活科授業研究 教育学演習ⅠB 学校教育課程論B	教育実践演習 教育学演習ⅡA 教育学チユートリアルⅡ	教職研究Ⅱ 教育学演習ⅡB	授業実践論 教育学演習ⅢA 教職研究Ⅰ(教育法規入門)	教職実践演習 教育学演習ⅢB	
就職セミナー				就職ガイダンス		就職ガイダンス 筆記対策	集団面接 個人面接 模擬授業	卒業前セミナー 公立校インターンシップガイダンス	
その他	教育相談	採用試験説明会		採用試験説明会		教職自主サークル採用試験説明会	教職自主サークル採用試験説明会		(教採支援)

(1) 学校現場に即した授業の充実

①「授業実践論」 交流人事教員担当

学生は、基本的な授業づくり(課題の設定、発問、板書の仕方等)を踏まえて授業構想を立て、模擬授業や事後討議を行うことを通して、実践的な授業研究について学んでいる。授業で、模擬面接・集団活動も行い、自他で考えを交流することを通して、教育への見方・考え方を深めることを大切にしている。本授業は、交流人事教員3名が中心となり指導に当たっているが、教員採用試験に向けた「教職セミナー」との連携を図ることで、多くの学部教員が模擬授業、個人面接、集団討論・集団活動等の指導に関わることができるようにした。このことにより、教育学部の全教職員で4年生の教職への道を支援する体制を整えることができている。

②「教職研究Ⅰ(教育法規入門)」交流人事教員担当

教員を目指すほとんどの学生が受講しており、基本的な教育法規(教育基本法、学校教育法、地方公務員法、教育公務員特例法等)及び答申・通知等について、事例をもとにしながら解説を加え、理解を深めるとともに、法令遵守精神の高揚を図っている。客員教授とも連携を図り、授業の質を高めることができている。従来は4年生が中心であったが、近年、多くの自治体が採用試験で3年次受験を認めるようになったことから、3年生の受講も増加している。

③「教職実践演習」(4年生後期) 川東・大和田

教職の探究をねらいとし、4年生の学びの総括となる授業で、教育課題の探究をはじめ、理論と教育現場をつなぐ役割を担っている。川東と大和田は、学級経営と生徒指導について担当し、理解をより深めるため、学校園の現状をもとに幼児・児童・生徒への具体的指導・支援の内容と方法等について演習を行った。学生の活発な意見交流のもと、教職への意識向上にもつながっている。

④「教職研究Ⅱ」（後期）交流人事教員担当

教職をめざす自覚の高まりを支えることをねらいに授業を行っている。令和5年度から、次年度以降の教員採用試験で3年生が受験可能な自治体への対応として、2年生の希望者も受け入れて実施し始めた。「就職セミナー」や「教職自主サークル」（学生の自主勉強会）と連携、協力しながら教育課題をキーにさまざまなテーマで授業を行った。学校現場の各分野で活躍されている方々の講義から教職の基本的実践について学び、教育の最新事情についての理解を深めることができた。先輩の現役教員の講話から教育現場の現状を知ること、4年生から今年の教員採用試験に向けての助言を受けることは、これから教員をめざす学生にとって、教職への意欲を高め、見通しをもって取り組む契機となっている。

⑤「生活科授業研究」（後期）中名・大和田

2、3年生対象に「生活科授業研究」を幼小接続、生活科の見方・考え方を踏まえて、学生が実践的活動をもとに子どもの学びについて考える・気付く経験を重ねることをねらいに進めている。この授業では、高松市立新番丁小学校の1年生との交流学习を実施している。11月に香川大学に招待し、構内の自然散策をしながら学ぶ「あきとなかよし」の授業を学生主体で計画し展開した。実際に児童とかわり合うことで、思いや気付きに触れることができるため、学生自身が児童や活動について、新たな発見や課題を見出すことができ、今後の学びにつながるものになっている。



「あきとなかよし」
交流の様子

⑥「教育実践演習」（3年前期・後期一部）川東・大和田

附属学校園で教育実習を行う3年生に対する事前・事後指導に協力している。特に事前指導の講話や演習等においては、学生が教育実習に臨むにあたり、実習の心構えを意識するとともに、不安を和らげ、期待を高めることができるよう、具体的な実習場面について考える活動を取り入れるなど、実習のイメージを具体的にもつことができるよう努めている。

⑦教職大学院での授業 中名

表1の授業以外に、教職大学院において、中名が他の大学院教員と連携しながら授業を担当している。授業力開発コースにおいて、「道徳授業の実践研究」では、道徳科におけるより効果的な表現活動のあり方について講義している。また、「授業研究の実践」、「指導法分析と学習支援」では、授業における質的評価のあり方や、授業分析・授業研究について、演習を交えながら授業を行った。いずれも学校現場の実践事例をもとにして演習や協議を組み入れ、理論と実践の往還に向けて、院生の学びが深まるよう支援を行っている。

以上のように、担当する各授業において、交流人事教員がこれまで学校現場で培ってきたそれぞれの専門性を生かし、工夫した授業を行っているところである。

(2) 学生への個別指導（演習ゼミ）

川東、大和田は、教育領域の他教員とも連携し、「教育学演習Ⅰ」において、教育領域2年生対象に教育課題をテーマに演習形式で授業を行っている。「教育学演習Ⅱ」で3年生6名、「教育学演習Ⅲ」で4年生6名を担当し、卒業論文に向けて課題追究への支援を行っている。特に4年次には研究テーマに即して、附属学校園での授業観察、児童・教員へのアンケートやインタビュー調査等、実地調査をもとに理論と実践を絡めながら追究することをめざし取り組んできた。学生は、教育や教職への関心を高め、子どもを見つめる心と目を育み、実践の力量形成の基礎を培ってきている。

また、中名は「教職実践研究」として、本年度は、院生1名を主担当、2名を副担当として指導を担当し、研究テーマに基づいた指導を行っている。院生が週1日継続的に行っている公立校での実習を通して得た実践的学びをさらに深められるよう指導し、教職大学院のテーマである「理論と実践の融合」の実現に努めている。

(3) 教育委員会・各学校との連携

今年度も従来通り、人的ネットワークを生かして学内外のつながりを図ってきた。県下の学校等における様々な教育活動推進に尽力してきた。

① 高大接続推進事業

令和3年度から「総合的な探究の時間」の分野を中心に、高大接続推進を目的とした高校との連携に取り組み、各校の実情に合わせて学生や教員を派遣している。今年度は、学生を研究アドバイザーとして、高松西高校と高松桜井高校に派遣し、高校生に対して指導助言を行った。

(2月に、坂出高校教育創造コースでも実施予定) また、教員を研究発表会の講師として、坂出高校と高松西高校に派遣した。この他、土曜日等に自主学習の支援を行うチューターとして、高松東高校や高松北中学校等にも学生を派遣した。高校生の探究的な学びや進路意識の向上に資するとともに、学生にとっても、子どもとのかかわり方を学ぶよい機会となっている。今後も高校との連携を継続し、効果的な取組を模索したい。

学生による課題研究の指導



② 香川の教育づくり発表会への参加

教職大学院では、フォローアップ・プログラムの一環として、県教委と連携し、毎年12月に開催される「香川の教育づくり発表会」において、短期履修学生制度を活用した現職教職員による研究発表を行っている。発表者と県教委との間の連絡調整を担当し、円滑な運営に向けて調整を図っている。

香川の教育づくり発表会での様子



(4) 教員採用選考試験合格へ向けてのサポート ～教職自主サークルと個別指導・相談～

授業外では特に、「教職自主サークル」(学生の自主勉強会:毎週月曜日 18:00~19:30)や、「個別指導・相談」(教員の空き時間等活用)等を通して教職を志す学生を支援している。「教職自主サークル」には教員志望の学生の多くが参加し、互いに研鑽する場となっている。本年度は、3・4年生を中心に150名以上の参加があった。交流人事教員3名は毎回オブザーバーとして参加し、指導・助言を行っている。集団討論や模擬授業等に関する各自治体の採用試験の情報・意見交換を行っており、本学ならではの伝統的取組だと内外の評価も高い。交流人事教員は、これらについて学校現場に即した情報を教えるとともに、教育課題をどう捉え、対応するか等、教員としての心構えや仕事の実際について助言を行っている。さらに、8月初めには二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を、11月には、教職2年目の卒業生から、教職の実際について講話を聴く「卒業生と在校生との交流会」を「教職研究Ⅱ」の授業とタイアップして実施し、学生にとって有意義な学びとなっている。

教職自主サークル
「先輩教員からの模擬授業指導」



また、採用試験に向けて個別、グループ指導を望む学生も多くおり、採用試験の願書作成指導、模擬授業、面接・集団活動について個別指導を行っている。これらの指導には、授業以外の多くの時間を要するが、個々の学生とのつながりや理解を深める貴重な機会となっており、交流人事教員が特に力を入れている支援活動である。

(5) 大学行事を通しての学生支援

例年10月に行われる「未来からの留学生(教育学部フェスティバル in 香大)」では、「おはなしの国2025」の講座において、学生と子どもたちがふれ合うことができるよう、学生への支援を行った。教育実習等とはまた違った環境の中で幅広い年齢層の子どもたちとふれ合い、創作劇の発表や音楽に合わせた遊びを通して、子どもたちとのかかわりを学ぶよい機会となった。教育領域2年生が中心となって企画運営に携わり、学生にとって、子どもたちと関わる貴重な学びの機会になったとともに、自信を深める活動ともなった。

未来からの留学生「おはなしの国2025」



2 今後の課題

現体制（学部担当2名、教職大学院担当1名）での取組が始まり11年目となる。これまでの交流人事教員が築いてきた功績を受け継ぎながら、さらなる効率化、授業の質の向上を目指している。平成29年度から構築されたシステム【表1】を基に、様々な授業科目・内容・体制等について周りの教員と連携して取り組むとともに、早期化・多様化が進む教員採用試験の新たな動向に対応できる体制づくりに向けて試行しているところである。

今、学校が対応すべき課題が複雑化・困難化する中で、教員の総合的な資質能力の向上が求められている。大学での授業でも、協働的な学びを意識し、学生同士が対話をしながら学びを深められるように、交流人事教員もICTを活用したアクティブラーニングの向上に努めている。その上で、交流人事教員がそれぞれの教職経験を十分に生かしながら、教職の魅力ややりがいについて学生に伝えることを通して、教員としての心構えを育み、教職の技能を高められるよう支援していくことがますます重要になると考えている。今年度は、小・中・高とそれぞれの校種の教員がそろい、それぞれの校種での経験を生かすことができた。これからも交流人事教員としての重責を自覚し、将来の教育界を支える優秀な人材の育成に、今後とも全力を挙げて取り組んでいく所存である。

3 23年目の活動内容

学内における活動

(1) 委員会等

〔川東〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

〔中名〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、教職大学院専攻委員

〔大和田〕 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

(2) 授業等

〔川東〕 【学部】 大学入門ゼミ、教職概論、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論B、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査

〔中名〕 【教職大学院】 指導法分析と学習支援、道徳授業の実践研究、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、授業研究の実際、教材開発の理論と実践、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム

【学部】 大学入門ゼミ、教職概論、学校教育課程論A、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、授業実践論、生活科授業研究、就職セミナー、教職自主サークル

〔大和田〕 【学部】 大学入門ゼミ、教職概論、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論A・B、教職研究Ⅰ(教育法規入門)、教職研究Ⅱ、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、生活科授業研究、初等授業研究、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査、

(3) その他

〔川東〕 「教職実践演習」WG、卒業前対策講座担当、高大接続推進事業担当

〔中名〕 卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

〔大和田〕 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当、

学外における社会的活動

〔川東〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師

〔中名〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香小研生活総合部会夏季研修会(講話等)(2025.7)
大学入学共通テスト試験(監督)(2026.1)

〔大和田〕 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県がん教育推進委員(協議会、研究校参観)
大学入学共通テスト試験(監督)(2026.1)、香川県教育センター専門研修「小・中学校社会の授業づくり」講師(2025.7)、坂出市立坂出中学校校内研究授業指導(2026.1)、

資料 4 - 1

令和7年度 香川県教育委員会免許法認定講習(高等学校教諭)

1 目的

高等学校等に勤務する教員に対し、教育職員免許状取得に必要な単位を修得させ、あわせて資質の向上を図る。

2 開設科目、受講人員、期日

科目区分	開設科目	受講者数	期日
教科に関する 科目：工業	ヒューマンインタフェース	27名	8月27日(水)・8月28日(木)

3 日程

時間	8:30	8:50	9:00	10:30	10:50	12:20	13:00	14:30	14:50	16:20
第1日	受付(入室)	オリエンテーション	講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧	退室
第2日		受付(入室)	講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯	退室

4 講師(香川大学)

	期日	科目	講師
講義	8/27・28	ヒューマンインタフェース	教授 山田貴志

令和7年度 香川県教育委員会免許法認定講習 (特別支援学校教諭)

1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

2 開設科目、受講人員、開設期間

	実施形態	開設科目	受講者数	開設期間
講義1	オンライン型	聴覚障害児の教育課程及び指導法	85名	8月 5日(火)・ 6日(水)
講義2	オンライン型	知的障害児の教育総論	58名	8月30日(土)・ 31日(日)
講義3	集合型	重複・発達障害児の教育総論	44名	9月 6日(土)・ 7日(日)
講義4	集合型	特別支援教育の基礎理論	70名	9月13日(土)・ 14日(日)
講義5	オンライン型	視覚障害児の心理・生理及び病理	71名	9月27日(土)・ 28日(日)
講義6	集合型	肢体不自由児の教育総論	77名	10月4日(土)・ 5日(日)

3 日程 (全講義同一日程)

時間	8:30	8:50	9:10	10:40	10:55	12:25	13:35	15:05	15:20	16:50
第1日	受付	オリエンテーション	講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧	退室
第2日		受付	講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯	退室

※講義1、3、4のオンライン型については、8:00~入室可。

4 講師(香川大学)

	開設期間	科目	講師
講義3	9月 6日(土)・ 7日(日)	重複・発達障害児の教育総論	准教授 加藤 隆芳(9月6日) 教授 恵羅 修吉(9月7日)
講義4	9月13日(土)・ 14日(日)	特別支援教育の基礎理論	教授 小方 朋子
講義5	9月27日(土)・ 28日(日)	視覚障害児の心理・生理及び病理	教授 恵羅 修吉
講義6	10月 4日(土)・ 5日(日)	肢体不自由児の教育総論	准教授 加藤 隆芳

資料 5-1

令和7年度 管理職候補者研修会 主幹教諭・指導教諭・教諭用

◎印（第1回、第8回研修）は全員参加

2年目以上の者は、第2回～第7回研修から2回以上選択（第1回研修会で参加希望をとる）

回	期日	指標	研修内容		会場	講師
			講義等	法規演習		
1	5月 22日 (木)	管 Aa1 管 Ac1 管 Bb1	◎義務教育課長講話 ◎オリエンテーション ◎香川の教育課題 (保健体育、特別支援教育、 人権・同和教育、 学習指導、生徒指導等)		県教育センター (大研)	義務教育課長 保健体育課長 特別支援課長 人権・同和教育課長 事務局職員
2	6月 9日 (月)	管 Ba1 管 Bb1 管 Cb1 管 Ac1	管理職の職務(中学校長) 教頭の役割と実務(教頭) 市町教委教育長講話 学校と市町教育委員会 市町教委と教育事務所	教育法規の 概要	県教育センター (大研・5研)	現職校長・教頭 市町教委教育長 市町教委 事務局職員
3	7月 7日 (月)	管 Ba1 管 Bb1 管 Cb1 管 Ca1	管理職の職務(小学校長) 教頭の役割と実務(教頭) (以上オンライン中継) 公務災害	服務 児童生徒の就学 教育課程	県教育センター (大研・7研)	現職校長・教頭 事務局職員
4	7月 31日 (木)	管 Ca1 管 Cc1 管 Ab1	【オンライン研修】 学校の危機管理について ・学校安全 ・生徒指導	講義に法規内容 含む	各勤務校・勤務 場所	香川大学
5	8月 1日 (金)	管 Ca1 管 Cc1 管 Ab1	【オンライン研修】 学校危機管理について ・教員のメンタルヘルス ・保護者・地域住民との協働	講義に法規内容 含む	各勤務校・勤務 場所	香川大学
6	9月 4日 (木)	管 Bb1 管 Bc1 管 Cb1 管 Cc1	目標申告・評価制度 人事評価制度	学校保健・安全	県教育センター (大研・5研)	現職校長 事務局職員
7	10月 9日 (木)	管 Ab1 管 Bc1 管 Cb1 管 Cc1	特別支援教育力の向上 カリキュラム・マネジメント 学校組織マネジメント	分限・懲戒 児童生徒の懲戒 ハラスメント	県教育センター (大研・5研)	特別支援教育課 外部講師 事務局職員
8	1月 15日 (木)	管 Aa1 管 Ab1 ア 管 Ca1 管 Bc1	◎教育長講話 ◎学校事故への対応 ◎学校事務 ◎研修受講奨励 ◎1年間のまとめ	講義に法規内容 含む	県教育センター (大研)	教育長 事務局職員

※第1回～第8回：全日研修 9:25～16:25 受付 9:00～9:25

※県教育センター：高松市郷東町 587-1（第4回、第5回は、オンライン研修のため、各学校での受講）

※持参物：教育小六法、香川県教育関係職員事務必携、各市町教育委員会の管理運営規則及び含む規則

「信頼される教師を目指して」、「わいせつセクハラ事例集」「個人情報適切な取り扱いと流出の未然防止に向けて」「懲戒処分の指針（香川県教育委員会）」

※第4回、第5回は、教職大学院連携研修 405、406「学校の危機管理研究Ⅰ-①、②」として実施。

この2回の講義内容の個別事例研究を、香川大学教職大学院教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」として、9月6日（土）、9月13日（土）に開講する。参加は自由。

※今後、事情により内容等が変更になる場合があります。

教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの実施について
～教職大学院連携研修と教員研修連携科目の構築～

学校力開発コース

1. プログラム実施の背景・趣旨・目的

学校を取り巻く環境の変化に伴う多様化・複雑化した問題や課題が生起しており、諸課題を主体的に受け止めて解決を図るため、香川県教員等人材育成方針及び指標に基づいた高度な実務能力を備えたスクールリーダーの育成が求められている。他方、教員の志願者のみならず管理職候補者登録選考試験の受験者数が減少傾向にあり、次代の学校教育を推進する人材の育成が喫緊の課題となっている。

そこで教職大学院ではスクールリーダーの育成に重点的に取り組むことを重点課題とし、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携協力を強化することにより、教員研修の中核パートナーとして、教員の養成と研修の一体的な取り組みの推進に寄与したいと考えている。

2. 現状

香川大学教職大学院は、平成 31 年度から 2 年間独立行政法人教職員支援機構の事業委託を受け、「教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの開発～ラーニングポイント制の構築に向けて～」について検討を行い、連携・協働事業として次の 3 点が実現している。

- ① 香川県教育センターの教員研修体系に「教職大学院連携研修」^{※1}が位置付けられている。
※1 「教職大学院連携研修」は、教職大学院科目の一部を教員研修として提供
 - ・教職大学院連携研修講座 「子ども理解と学習指導」 R7 より名称変更
「道徳科の授業づくり」
「教育効果を高めるための ICT 活用法」 R5 より名称変更
「授業における特別支援教育」
「学校の危機管理研究Ⅰ—①」 「学校の危機管理研究Ⅰ—②」
- ② 教職大学院学校力開発コース科目として、スクールリーダーの養成を目指すことを目的として教員研修との連携を図った「教員研修連携科目」^{※2}を開設している。
※2 「学校の危機管理研究Ⅰ」集中：2 日間（管理職候補者研修に含む）
「学校の危機管理研究Ⅱ」集中：2 日間（希望履修）
なお、「学校の危機管理研究Ⅱ」を希望履修した管理職候補者が 3 年以内に教頭として徴用された場合は、「新任教頭研修」の当該内容に係る研修を免除することができる。
- ③ 研修形態としては、オンラインで受講する同期型遠隔研修^{※3}を実施した。
※3 「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」について、年度当初から実施を予定。

3. 課題と本年度の取組

(1) 課題

- ① スクールリーダー、とりわけ学校管理職を志望する教員の減少に伴い組織的・計画的に人材開発を行う。
- ② 教員の働き方改革が進められている中「学び続ける教員像」の具現化を図るため、教員が「学びたい時に学べる」研修環境を整備する観点から教員研修における「研修受講履歴記録」の在り方、「ラーニングポイント制」の導入及び教員研修体系の多様化を検討する。
- ③ 香川県教員等人材育成方針及び育成指標の趣旨を踏まえて「教職大学院連携研修」及び「教員研修連携科目」について内容の改善を図る。
- ④ 上記①から③について具体的な方策や作業工程などを検討し、教員研修に係る教職大学院と香川県教育委員会・香川県教育センター、高松市教育委員会・高松市総合教育センターとの一層の連携協力を図るため設置した「香川大学教職大学院教員研修高度化推進室」の活動を充実させる。

(2) 本年度の取組

検討にあたっては、「教員研修システム共同開発委員会」において、香川大学教職大学院、香川県教育委員会・香川県教育センター及び中核市として管内教員の研修主体となっている高松市教育委員会・高松市総合教育センターの各担当により協議を行っている。

資料1. 教員研修システム共同開発委員会の開催状況

回	開催日	検討内容
第1回	令和7年6月2日	<ul style="list-style-type: none"> ○教員研修に係る連携・協働の実績について ○教員研修に係る令和6年度の取組について ○今年度の検討課題について <ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院と連携した教員研修の在り方 (教職大学院連携研修、教員研修連携科目) ・香川県教職員人材育成指標に基づく改正指標を踏まえた取組 ・香川型研修奨励システムについて
第2回	令和7年10月8日	<ul style="list-style-type: none"> ○教員研修に係る教育委員会の取組について ○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター) ○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」について (教職大学院) ○香川型研修奨励システムについて
第3回	令和7年12月9日	<ul style="list-style-type: none"> ○教員研修に係る教育委員会の取組について ○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター) ○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」の受講状況等について (教職大学院) ○香川型研修奨励システムについて
第4回	令和8年3月4日 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ○教員研修に係る教育委員会の取組 ○教職大学院連携研修等について (県教育センター・市総合教育センター) ○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」について (教職大学院) ○香川型研修奨励システムについて

資料2. 令和8年度教職大学院連携研修及び教員研修連携科目実施予定

教職大学院連携研修講座名	指標	実施日	研修形態	定員	会場
401 子ども理解と学習指導	Bb	7月29日(水)	集合型	20人	県センター
402 道徳科の授業づくり	Bbイ	8月6日(木)	集合型	50人	香大
403 教育効果を高めるためのICT活用法	Bbイ	7月30日(木)	集合型	36人	県センター
404 授業における特別支援教育	Baア	7月29日(水)	集合型	50人	県センター
405 学校の危機管理研究Ⅰ—①	Cc	7月31日(金)	双方向配信型	120人	
406 学校の危機管理研究Ⅰ—②	Cc	8月3日(月)	双方向配信型	120人	

教員研修連携科目		実施日	研修形態	定員	
(希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ—①	Cc	8月21日(金)	双方向配信型	100人	
(希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ—②	Cc	8月24日(月)	双方向配信型	100人	

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業

1 趣旨について

児童生徒の資質・能力育成のため、学校における授業づくりに当たっては、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが求められる。

本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の学力の向上に資する。

2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を4校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) モデル校は、香川県教育センターが実施する調査研究事業に協力する。
- (3) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (4) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会や、せとうち先生スキルアップチャンネルへのコンテンツ提供などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (6) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (7) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (8) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立 仏生山小学校	令和7年7月24日（木） 9：00～10：00	准教授 岡田 涼	自己調整学習に沿った、国語科における読む力の育成についての講話
観音寺市立 大野原小学校	令和7年11月27日（木） 13：35～16：30	准教授 岡田 涼	国語科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言
観音寺市立 大野原小学校	令和7年7月10日（水） 15：15～16：30	准教授 岡田 涼	特別活動を基盤とした学級づくりや授業作りについて講和
観音寺市立 大野原中学校	令和7年9月8日（月） 13：30～14：30	講師 浅井 哲司	国語科の研究授業において、学校の研究の視点に基づいた事前の指導・助言
観音寺市立 大野原中学校	令和7年10月2日（木） 15：30～16：30	講師 浅井 哲司	国語科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言

※ モデル校の研究内容

■ 高松市立仏生山小学校

研究主題 子どもとともに「楽しく 分かる・できる」国語科授業の創造
～主体性と協働性を高め、学びの系統性を重視した授業づくり～

■ 坂出市立加茂小学校

研究主題 他者と関わりながら楽しさを感じ、個が高まる学びづくり

■ 観音寺市立大野原小学校

研究主題 共に分かち合い、生き生きと自己表出する児童の育成
～個の可能性を引き出す授業づくりを通して～

■ 観音寺市立大野原中学校

研究主題 「ときめき」のある授業づくり
～主体的に学ぶ生徒を育てる！～

道徳教育地域支援委託事業

1 趣旨について

学校や地域の実情に合わせて学校の道徳教育の指導内容が児童生徒の日常生活に生かされるようにするために、道徳教育の質的転換に向けた指導方法の改善、道徳教育に係る評価の在り方等についての取組を支援するとともに、その結果得られた成果について県下に発信する。

2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、本委託事業を実施する「研究推進校」を指定する。
- (2) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、実践研究を行う推進校において設定する。
※地域の特色を生かしたふるさと教育に関する研究については、①「ふるさと香川」（県教育委員会作成）を活用し、地域の実態に応じた内容にすること、②児童生徒が主体的に地域課題に関わり、地域の方と協働して問題解決に取り組むなど、ふるさとの特色を生かした地域教材を開発すること。
- (3) 推進校は、授業や校内研修の積極的な公開に努めるものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、推進校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、推進校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (5) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、推進校の研究を支援する。大学教員は、推進校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は指導主事を推進校に派遣し、適切に支援するとともに推進校の取組を評価する。
- (7) 香川県教育委員会は市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などを適切に支援するとともに推進校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立 牟礼中学校	令和7年7月1日(火) 午後	教授 植田 和也	道徳の授業研究後の討議会において、助言・指導
高松市立 牟礼中学校	令和7年8月25日(月) 午前	教授 植田 和也	教育目標を基にした教材づくりや授業づくりにおいて助言・指導
高松市立 牟礼中学校	令和7年10月1日(水) 午後	教授 植田 和也	道徳の指導案検討において、助言・指導

※ モデル校の研究内容

■ 高松市立牟礼中学校

研究主題

なかまとともに豊かな心を育む道徳教育
～自己を見つめ、互いに高めあう授業の工夫～

幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園・認定こども園に派遣することによって、「香川県就学前教育振興指針」（令和 2 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む。）及び幼保連携型認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園等における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者

No.	氏名	役職・分野
1	片岡 元子	香川大学教育学部教授・幼児教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部教授・幼児教育
3	松井 剛太	香川大学教育学部准教授・幼児教育
4	吉川 暢子	香川大学教育学部教授・幼児教育
5	金子 之史	香川大学名誉教授・理科教育

- (2) 県教育委員会指導主事
 (3) かがわ幼児教育支援センター幼児教育専門員

2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園等の申請に基づき、幼稚園等を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

3 派遣実績（令和 7 年度：2 市町 2 園）

	園 名	訪問日	研修内容	支援員
1	丸亀市立 あやうたこども園	令和 7 年 6 月 30 日(火)	明日の保育につながる職員の楽しい語り合いとは（幼児理解・環境構成・子どもの育ちや学びについて）	金子之史先生
2	三木町立氷上幼稚園	令和 7 年 7 月 2 日(水)	小規模園の強みを生かした子ども理解や遊びにおける環境構成の在り方、職員の働き方とは	吉川暢子先生

香川県学力等調査結果分析検討会議

「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析並びに県下各小中学校が分析結果を有効活用できるよう支援することを目的とする。

分析検討会議は、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析
- 「香川県学習状況調査」の問題（国語科・算数科・数学科）及び質問項目の内容検討

1 委 員

No.	氏名	役職	分野/領域
1	松島 充	香川大学教育学部教授	教科教育分野 数学領域
2	岡田 涼	香川大学教育学部准教授	教育課題研究分野 心理領域
3	浅井 哲司	香川大学教育学部講師	教科教育分野 国語領域
4	横山 佳充	香川大学経済学部教授	経済・政策領域 経済・政策分析コース

2 分析検討会議

日 時	主な内容
令和7年 8月19日（火）	○ 令和7年度全国学力・学習状況調査の報告書についての分析検討
令和8年 1月6日（火）	○ 令和7年度香川県学習状況調査の報告書についての分析検討

第 24 回 「未来からの留学生」をふりかえり

実行委員長 宮前 淳子

第 24 回未来からの留学生を令和 7 年 10 月 12 日（日）に開催いたしました。

事前予約では多くの申し込みをいただき、約 500 名の皆様に講座当選のご連絡をさせていただきました。また当日は、講座に参加されるお子様だけでなく保護者やきょうだいの皆様など合わせて約 1000 名の地域の方にご参加いただきました。

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、教育学部 2 年生の学生が主体となり、活動の企画・運営を通じて、子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっております。例年と同様、今年も事前完全予約制の形式をとりました。8 月下旬には県内の各小学校および附属園等にチラシを配布し、9 月初旬より未来からの留学生 HP にて各講座への募集を開始しました。今年度の事前申込型講座は、学生が所属する各領域から合計で 30 講座が展開されました。この事前申込型講座では、申込みできるのはお一人 1 講座までとなっておりますが、事前申込型講座の時間以外も楽しんでいただけるよう、いつでも参加可能な自由参加型講座も 6 講座設けました。また、今年も引き続き、香川県教育委員会様のご協力のもと、自由講座として「Zutt Mott ふるさと」が開講されました。

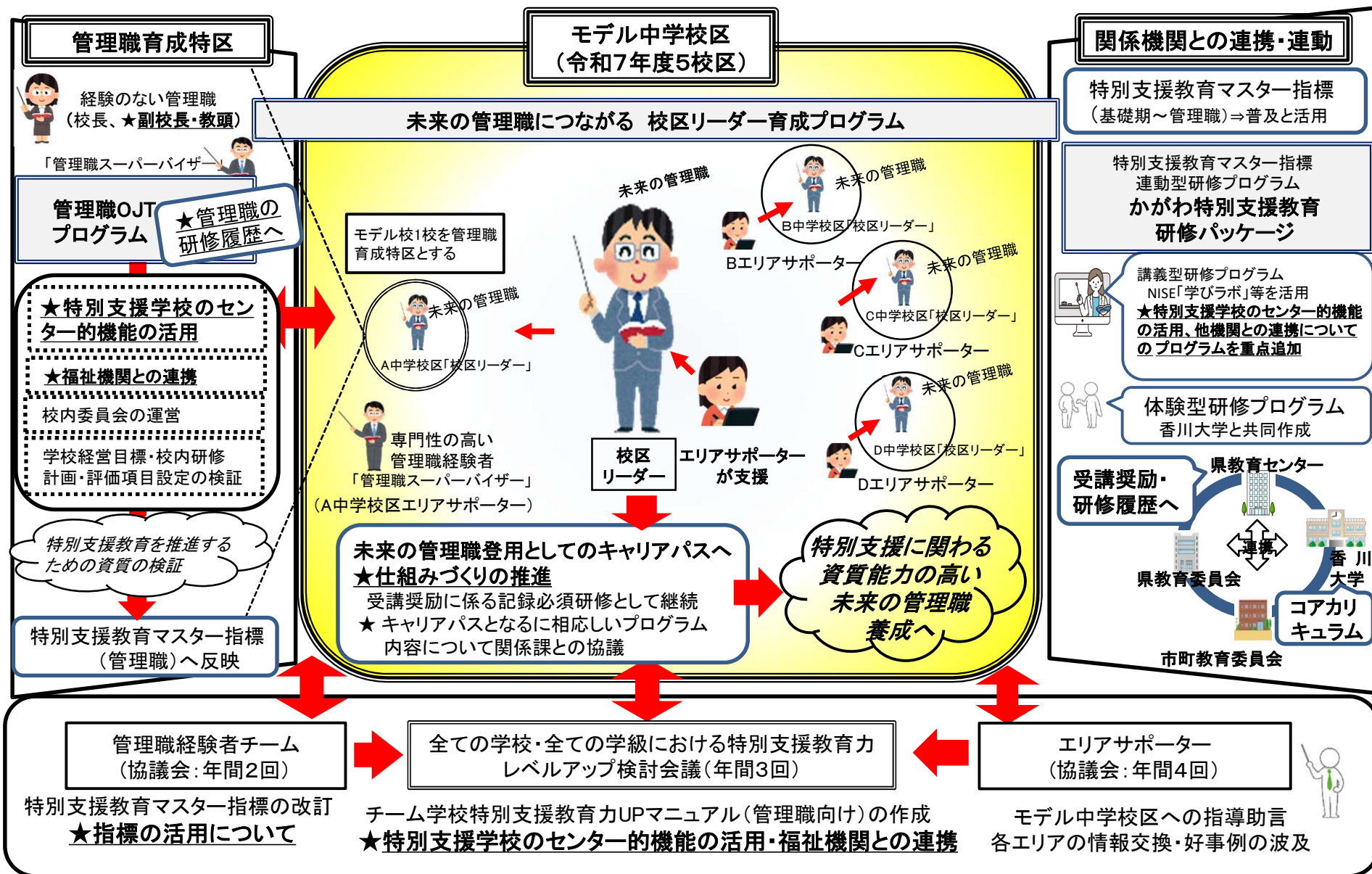
各領域の学生からの報告書には、企画・実践・振り返りを通じた学びの成果や、子どものかかわり方への気づきについての学生の記述が多数見られました。これらの記述から、本事業における学生の成長を実感しております。なお、報告書は教育学部 HP に掲載され、各講座における取り組みの様子が公開されております。

最後になりましたが、本事業は香川県教育委員会のご後援を受けて実施され、教育学部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと開催されました。本年度の活動の実施に関しまして、多方面からご尽力頂きましたことに深く感謝申し上げます。



管理職のリーダーシップによる全ての学校・全ての学級における特別支援教育体制構築事業
(管理職をはじめとする教員の理解啓発・専門性向上のための体制構築事業)

【目的】モデル地区での未来の管理職につながる校区リーダー育成プログラムと教員育成指標である「特別支援教育マスター指標」と連動した「かがわ特別支援教育研修パッケージ」の活用により、管理職のリーダーシップによる全ての学校・全ての学級における特別支援力のレベルアップを目指す。



令和7年度 坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援について
月日の欄の※印は別添資料あり

1. 大学教員による指導等

(1) 出前講座

回	月・日	学年	担当講師	講義のタイトル
1	5月30日	3年生	柗澤利也 先生	『教育』ってなんだろう？
2	6月13日※	2年生	片岡元子 先生	幼児期の教育—遊んで大きく育つ
3	7月4日	2年生	山本木ノ実先生	教職を知る—中学校生活
4	9月12日	1年生	清水顕人 先生	道徳教育について
5	9月19日	3年生	杉野本勇氣先生	なぜ数学を学ぶのか
6	9月26日	2年生	小方朋子 先生	特別支援教育について
7	10月31日	1年生	宮前淳子 先生	身近にある心理学
8	11月7日	1年生	小方直幸 先生	16歳からの社会学
9	11月14日	3年生	坂井 聡 先生	障害があるとはどういうことなのか？
／	4月18日	1年生	岡田 涼 先生	探究活動って何？

4月18日の岡田先生の講義は、教育創造コース単独ではなく1年生合同で実施した。

(2) グループ研究指導

回	月・日	学年	担当講師	内容
1	5月23日※	3年生	川東芳文 先生、小方朋子 先生 栗田隼人 先生（高校教育課）	研究発表会
2	1月30日	2年生	川東芳文 先生、小方朋子 先生	中間発表会
3	2月27日	1年生	川東芳文 先生、小方朋子 先生	研究発表会

この他、春季休業中等に、2年生は各研究室の先生方から指導を受けている。

(3) 香川大学訪問(2月12日終日)

月・日	学年	担当講師	内容
2月12日	1年生	川東芳文先生、小方朋子先生	施設見学、大学説明、講義の聴講

2. 附属坂出学園における活動

学年	活動場所	回	月・日	内容
1年生	附属坂出小学校	1	4月11日	オリエンテーション
		2	5月30日	授業見学、給食、昼休み、清掃指導等
		3	6月13日	授業支援、給食、昼休み
		4	9月19日	昼休み体験活動（工作等）
		5	11月21日※	グループ研究をもとにした授業実践等、給食、昼休み、清掃指導等
		6	2月6日	授業支援、給食、昼休み、清掃指導等
2年生	附属坂出中学校	1	5月12日	共創型探究学習CANの支援活動
		2	6月20日※	共創型探究学習CANの支援活動

		3	9月10日	共創型探究学習CANの支援活動	
		4	9月24日	教育実習生の研究授業の見学	
	附属幼稚園	1	5月26日	オリエンテーション	
		2	6月12日※	遊びを通じての交流①	
		3	10月28日	遊びを通じての交流②	
		4	12月2日	遊びを通じての交流③	
	附属特別支援学校	1	12月16日	訪問・学校説明・授業見学	
	3年生	附属坂出小学校	1	9月26日	教育実習生の研究授業の見学

12月16日の特別支援学校訪問は、本校の学級閉鎖により三学期に順延の予定。

香川県立坂出高等学校 教育創造コース 3年

教育課題に関するグループ研究発表会

を開催しました

5月23日(金)、教育創造コースは、「教育課題に関するグループ研究発表会」を実施しました。

3年生は、昨年7月から3～4名のグループを結成し、教育界が直面している現代的な課題に関するテーマを自ら設定して、探究活動を行ってきました。

班	研究テーマ
1	小学生の体力低下の原因と対策
2	こどもが楽しめる食育
3	生徒が自発的に取り組める授業とは？～in 歴史～
4	不登校児童生徒を減らすためには何ができるのか
5	環境を通して行う幼児教育
6	小学校の給食と教育の関係～食品ロスについて～
7	ICT 機器を用いて学習意欲を向上させる方法～数学～
8	中高生からでも身につくリスニング力
9	子どものことをいち早く理解するには？ ～小学校教師の子ども理解とその手段について～
10	生徒たちが主体的に取り組む日本史の授業とは？ ～詰め込み教育を植え込み教育に～

探究の過程では、香川大学の先生方をはじめ多くの方々にアドバイスやご指導・ご協力をいただきました。どの発表も、本コースでの様々な教育支援活動や出前講座等で学んだことをもとにして、実践や試行錯誤を経た上での探究の成果が語られました。



1、2年生からは積極的な質問の手が上がり、教育のあり方について活発な意見交換が行われました。

香川大学教育学部の小方先生、川東先生からは数多くの貴重な指導助言をいただき、香川県教育委員会事務局の栗田主任指導主事からは、心温まるご講評をいただきました。

教育創造コース生たちの、教員をめざす思いがあふれ出るような発表会となりました。



香川県立坂出高等学校 教育創造コース 2年 幼稚園交流活動①

香川大学教育学部附属幼稚園で、 園児との交流をしました

6月12日、教育創造コースの2年生は、**香川大学教育学部附属幼稚園**で、園児の皆さんと一緒に活動しました。事前のオリエンテーション(5月26日)には、附属幼稚園では、子どもたちが主体的な遊びを通して友達やものとのかかわりを広げていくことを大切にした教育が行われていることを学びました。環境調整の大切さや、大人と一緒に遊ぶことの意義を感じながら、子どもたちと力いっぱい遊びました。

※正方形の中は、参加した生徒の感想です



園児が泥だんごを見て、「アイスクリームみたい」と言ったので、「アイスクリーム屋さんをしよう」と言ったら、とてもうれしそうな顔をしてくれて、一緒に遊びました。



園児がブロックとレールを組み合わせてコースを作り、ビー玉がうまくゴールできるようにコースを修正しながら遊んでいました。園児が失敗から学んでいる姿にとっても驚きました。



読み聞かせは1冊読むと次から次へと本を持ってきてくれて、合計で10冊近く読みました。口が疲れました…。去年の読み聞かせの講座がとても役に立ちました。



幼稚園の先生方は声と表情を全て使って、全力で対一対一で子どもと向き合い、叱るときは叱る、注意するときは注意する、遊ぶときは遊ぶ。一人の人間として子どもをとらえ、向き合っていた。



香川県立坂出高等学校 教育創造コース2年

香川大学教育学部出前講座②

演題「**幼児期の教育～遊んで大きく育つ～**」

6月13日、教育創造コース2年生は、香川大学教育学部の片岡元子先生によるご講義「**幼児期の教育～遊んで大きく育つ～**」を受講しました。

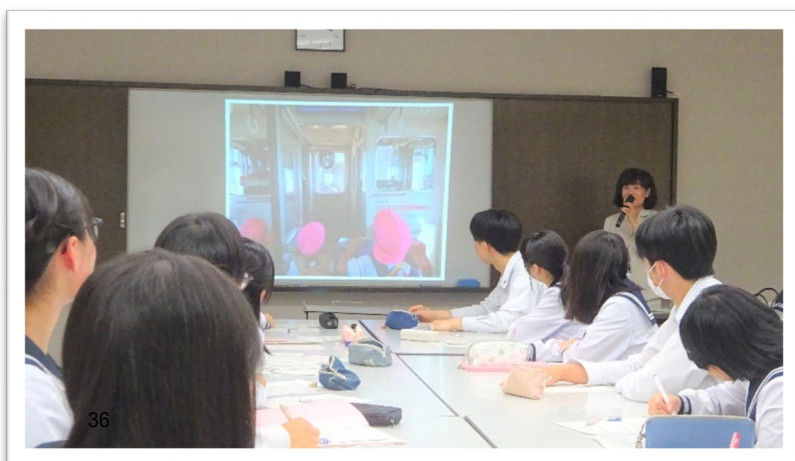


前日に附属幼稚園で園児との交流活動を体験したところだったので、まずはその活動をゆっくりと振り返りました。

その後、幼児期の教育、中でも遊びを通じた幼児の成長をどのようにとらえるか、人的環境としての保育者にはどのような役割があるか、などについて考えを深める時間になりました。

【生徒の感想】

- ★遊ぶことに幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれていることを知り、驚きました。
- ★遊びの本質とは、成果を出すといった目的があるわけではなく、遊ぶことが目的だという考え方に気づきました。
- ★幼児期の記憶は意外と鮮明なもの。人間の土台となる時期に人間性や社会性を学習することは、生きていくうえで一番大事なことだと思った。
- ★次に幼稚園に行くときには、子どもたちの「やってみたい」を引き出せるような声かけができるようになりたい。



香川県立坂出高等学校 教育創造コース 2年 中学校支援活動②

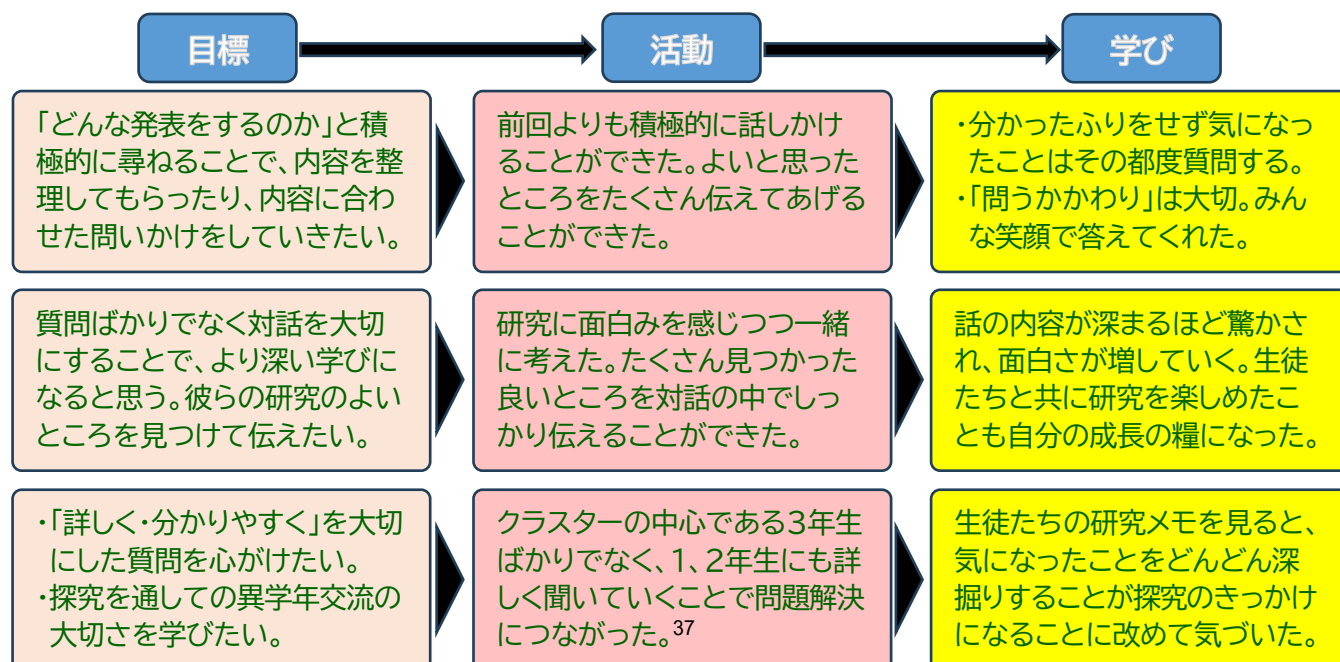
香川大学教育学部附属坂出中学校で、 生徒の探究をサポートしました【2回目】

6月20日（金）、教育創造コースの2年生は、附属坂出中学校の**共創型探究学習CAN**に参加しました。前回の支援活動から1ヶ月ほどが経ち、中学生たちの研究も驚くほど進展し、発表の準備も始まっています。そのようなタイミングに、もう一度「**問うかかわり**」をすることで、さらに充実した研究になることをめざして、支援を行いました。



支援活動は、教育創造コース生にとっても貴重な学びの場です。1回目の経験や反省を振り返り、今回の目標を立ててから活動に挑みました。

附属坂出中学校の生徒の皆さんや先生方のおかげで、今回も貴重な学びを得ることができました。コース生の様々な感想のなかから3名の学びをご紹介します。



香川県立坂出高等学校 教育創造コース1年 小学校支援活動④

香川大学教育学部附属坂出小学校で、 はじめての授業をしました

11月21日、香川大学教育学部附属坂出小学校で、教育創造コースの1年生が、「授業参観・支援活動④」を行いました。今回の支援活動では、給食や休み時間での活動に加え、6年生と4年生の各クラスで、はじめて授業をさせていただく体験をしました。授業を行ったのは、探究活動で小学校教育をテーマとする4グループです。他のコース生は、授業の記録とグループワークの際のサポート役を担いました。

よりよい授業を作るために、コース生は、授業内容に関する参考文献を参照したり、学習指導案や提示用のスライドを作ったりするなどして当日を迎えました。教師が普段行っているような授業準備の流れを体験する機会にもなりました。

6年東組

運動って、体育って、
どうしてるの？



2グループで授業をしました。前半は、体育が好きな理由をたずねつつ、運動のメリットについて話し合いました。後半は、楽しくジェスチャーゲームをするなかで、体育や体を使った遊びを通してコミュニケーションの力を身につけられることを感じてもらう



6年西組

モヤモヤをはきだす方法
について考えよう

生活の中でモヤモヤ感をうまく吐き出せるようになってほ



「モヤモヤ感って?」「吐き出すにはどうしたらいい?」と、スライドによる説明や、班に分かれての話し合いを通して



4年東組・西組

正しい手洗いのしかたを
身につけよう

手洗いの大切さについて考えたり、ハンドソープの泡が汚れを吸着する様子を観察したりしたあと、正しい手洗いの仕方への理解を深めました。最後はみんなで手洗いの歌を歌って印象に残る授業となり



今回も、附属坂出小学校の先生方や児童の皆さんの協力によって、貴重な体験をすることができました。コース生にとっても、ここで得た学びは忘れられないものとなりました。

R7 教師のキャリアプランニング支援システム（教員と校長の1 on 1 対話支援ツール）について 県教育センター

1 システムの導入状況（R8. 1月現在）

- 小中：15市町 高：8校 特：2校 附属：5校
※未導入の市町・学校に対しては、年度はじめに導入希望調査を行う。

2 アンケート結果まとめ

- 実施時期：令和8年1月
- 対象：教師のキャリアプランニング支援システム導入済の県内公立学校（小中高特）
- 結果
 - ア 支援システムについて、各校における管理職の利用状況

回答年度		R6				R7			
校 種		小	中	高	特	小	中	高	特
①	利用した	16	6	3	1	11	6	3	1
②	今年度中に利用予定	41	18	5	1	23	16	0	1
③	利用していない	63	30	11	5	101	31	3	0

イ 管理職はどのように利用しましたか。（アで①を選んだ学校が回答）

①～⑧から当てはまるものを全て選んでください。

回答年度		R6				R7			
校 種		小	中	高	特	小	中	高	特
①	面談の日程調整	9	3	3	1	4	4	3	1
②	個々の資質・能力等について自己分析	13	3	2	1	6	3	1	1
③	今後伸ばしたい資質能力や担いたい職務を確認	5	3	2	1	2	4	1	1
④	面談で話したいことを入力・確認	5	1	3	1	1	3	2	1
⑤	面談の感想や満足度を入力・確認	2	0	1	1	0	2	0	1
⑥	面談記録を文字起こし	1	0	0	0	0	2	0	0
⑦	Plant へのリンクから研修履歴確認や研修検索	7	4	1	0	5	5	1	0
⑧	その他	0	1	0	0	0	0	0	0

ウ 利用によりどのような効果がありましたか。（記述）

（小中）

- ・研修履歴確認を行うことで、各自の自己状況を把握できて、指導にいかせた。
- ・個々が職務として研修に臨む姿勢がもてる。
- ・若年教員の自己評価に活用した。具体的でわかりやすく評価しやすい。
- ・面談への意識が高まった。
- ・面談予約が効率的にできる。教員個々の成長機会や課題解決を体系的に支援できる。
- ・経験年数や立場に応じた研修等への的確な声かけに生かすことができた。
- ・個別面談の日程調整が容易であり、面談までに個々が自己分析を入力しておくことで、面談を円滑にかつ充実したものにできる。

（高特）

- ・パスワードなどの入力やタブレットでの使いにくさがあり、充分活用できなかった。
- ・①記録がきちんと残ることで、面談に継続的に活用できる。②事前に入力してもらうことで、要点を押さえた面談ができる。③面接後に感想を記入してもらうことで、面談を受けた教員の思いや状態を把握できる。

香川大学SDGsアクションプラン推進課題 教育学部主管 SDGs教育プロジェクト



プロジェクトの目的

教育学部教員が核となり、附属学校や全学共通科目等を含む全学展開、また一般市民の方々にも展開・波及するよう、広い意味でのSDGs人材育成のプロジェクト

プロジェクトの目標

- ▶ 大学院生、学部在校生、附属学校生徒、市民を対象に
- ▶ 啓発・啓蒙イベントとして、シンポジウム、セミナー
- ▶ 教育カリキュラム検討
- ▶ 研究成果を発信するジャーナル・ニュースレター

附属学校と学部の共同研究

R7年度は11件の共同研究プロジェクトを展開
SDGsに関する研究。SDGsに関する教育方法、教育内容、教育実践等について、学部教育・附属学校園の教育研究開発を支援するもや、教育実践研究一般を進めるものに分けて公募。

SDGs教育とサイエンス



図：8月9-10日に実施した「サイエンスがひらく未来のキャリア」。写真の通り参加1000人以上。多くの学生も企画側として参加。

講演・報告会

9世紀の木簡史料に登場する在来コメ品種「白稲(しろいね)」からにがり酒の製造に成功！—5月16日「栽培・醸造実験の成果報告と試飲会」

図：香川大学教育学部守田逸人研究室・同農学部諸隈正裕研究室で実施している、日本の在来コメ品種の栽培実験を実施。古来の酒造りの再現も試みている。



全学共通教育「SDGs学入門」の開講

1年生対象のSDGs入門授業。教育学部の教員が中心になり、全学教員のご協力をいただいている。

今年度は11月20日「SDGsをまるごと再考—個々の取り組みを方向づけるために」を開講。

実践的レポート課題「やってみるSDGsレシピ」作成

「SDGsをまるごと再考—個々の取り組みを方向づけるために」
日時：2025年11月20日(木) 16:20~17:50
会場：香川大学卒町北525教室

講師：中野裕孝 / 高澤裕孝 (ほかのみなさんかたかきゆうこう)
中野裕孝 (講師)：環境学専攻・環境学研究室 准教授。博士(工学)。香川大学や現代文プログラムで物理学を研究している。主な業績として、「バンドの非対称性論」(物理学雑誌、2012年)、「1次元・2次元スピン流」(物理学雑誌、2015年)、「量子」(2024年) などがある。
高澤裕孝 (講師)：環境学専攻・環境学研究室 准教授。博士(工学)。香川大学で環境学を専攻し、博士論文でSDGsの中核的価値観を軸とした持続可能な社会の構築に関する研究を行った。現在は環境学専攻でSDGsに関する授業を担当している。

図：企画チラシ。講師は中野裕孝 / 高澤裕孝先生(東京大学)

「やってみるSDGsレシピ」

EF(エコロジカルフットプリント)実感！香川唯一の水車「高原水車」を探索しよう

- ▶ 趣旨
- ▶ 香川県にはいま、稼働する水車はただ一つ「高原水車」のみです。かつては香川県に300台の水車がありました。

図：今年度の新しいSDGsレシピ：香川県にただ一つ残る稼働する水車である高原水車でSDGsとエコロジカルフットプリントを学ぶ。11月29日に実施。

「未来からの留学生」(10月12日開催)でSDGs活動を紹介！ 250名の来訪



香川大学教育学部で実施しているSDGsに関する教育・研究・地域貢献活動を紹介しました。

訪れた多くの子どもたちは学校でもSDGsについて学んでおり、教育学部で行っているSDGsの取り組みにも興味をもってくれました。



教育学部SDGs活動紹介

香川大学教育学部はSDGsに関する活動を推進しています。



覺書・要項

香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

(目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

(実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

(研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

(連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協りに当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

(連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

(経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

(補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長
惣 脇 宏

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長

副学部長

教育研究評議員

実地教育委員会委員長

学生支援専門委員会委員長

学務委員会委員長

入試専門委員会委員長

附属学校代表

附属教職支援開発センター長

幸町地区統合事務センター長

幸町地区統合事務センター事務課長（幸町北キャンパス担当）

香川県教育委員会

教育長

副教育長

教育次長

総務課長

義務教育課長

高校教育課長

特別支援教育課長

香川県教育センター所長